



2016年9月6日発行

2016年9月号(通算192号)

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2016～2017主題】

国際会長 Joan Wilson
アジア地域会長 Tung Ming Hsiao
東日本区理事 利根川 恵子
あずさ部長 浅羽 俊一郎
東京武蔵野多摩会長 山口 直樹

「Our Future begins Today」
「Respect Y's Movement」
「For the Future, Act Today!」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ!」
「一步一步前に進もう。Yと共に!」

【クラブ役員】

会長 山口直樹
副会長 板村哲也
副会長 伊佐節子
会計 宮内友弥
書記 渡辺大輔

2016年 今月の聖句

富は、天に積みなさい。そこでは、虫を食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。(マタイによる福音書6章20～21節)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利を伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAに尽くそう
1. 世界的視野をもって国際親善を図ろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
1. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
5. 健全な交友関係を作り出す

9月例会プログラム

強調月間：ユース

日時：9月14日(水) 19:00～21:00

場所：東京YMCA西東京コミュニティセンター

司会：板村 受付：大輪、清水

ドライバー：野尻

- * 開会点鐘 (会長)
- * ワイズソング
- * 聖句朗読 (小坂)
- * ゲスト・ビジター紹介 (会長)
- * 夕食
- * 卓話 江夏さん
- * ハッピー・バースデー
- * YMCA報告
- * にこにこ
- * 閉会点鐘 (会長)

- * ハッピーバースデー
宮内さん、山口メネット、井口さん

8月例会報告

在籍者	13名
出席者	8名
メーキャップ	2名
出席率	77%
ゲスト	1名
ビジター	5名
メネット・コミット	1名
にこにこ	-

テーマ「やれること、やりたいこと、やらねばならないこと」

2012年1月に長野ワイズメンズクラブに入会。鶴見大学歯学部を卒業後、口腔病理学講座助手、東京医科歯科大学医学部非常勤講師を経て、東京都立多摩総合医療センター検査科で勤務(2011年から医長)。

また、2012年日本聖公会軽井沢ジョー記念礼拝堂で執事として土・日・祝日は勤務、勤務している多摩総合では、約6年前からNPO法人臨床研修支援協議会(現NPO法人多摩の医療健康増進フォーラム)を立ち上げスタートしました。5年前から始めた健康増進カフェを紹介します。



江夏 一彰

[強調月間コーナー]

9月 ユース (YIA、YEPP、STEP)

ユースの定義は「15歳から30歳の男女」とされ、事業としてYIA(若者の参画、活動)、YEPP (Youth Educational Exchange Programme : ワイズメン子弟高校留学生交換事業)、STEP

(Short Term Exchange Programme : ワイズメン子弟短期交流事業)があります。YIA (Youth Involvement and Activities) は、具体的にはワイズメンズクラブが行うさまざまな事業に多くの若者たちを巻き込む活動の奨励、ワイズユースクラブの育成、ユースコンボケーションへ補助等があります。

ユースボランティア・リーダーズフォーラムは、毎年9月に東京YMCA山中湖センターで行われワイズメンとしての参加者を募集しています。今年は9日から3日間。

今年から新しいYIAプロジェクトも創設されます。

また、今年はSTEP生が9月2日から6週間(東日本区には22日まで)デンマークからユースが訪日致します。

武蔵野多摩クラブは西東京センターのリーダーたちとの交流・協働ができる恵まれた環境を生かし、協働の輪を広げていきましょう。(TM)

コミュニケーション

板村哲也

オリンピックが終わった。見る者に感動と力を与えてくれた。オリンピックの開催には政治や商業主義、勝たんがための不正（ドーピング）が付きまとうが、競技自体には人種、言語、政治、宗教、信条は関係ない。多くが異なっている、スポーツで世界中の人々が感動できるのは、人間として伝わってくるもの、共有している何かがあるからであろう。（芸術ではそうはゆかない。人間の肉体的なもの、精神的なものの違いであろう。）

一方、この夏は日本では珍しいショッキングな事件があった。相模原障害者施設（津久井やまゆり園）殺傷事件（7月26日）である。犯人は「意思疎通できない人を刺した。」と語っている。意思疎通できないのは障害者なのか犯人なのか……。意思疎通とは何なのか……。

さらに、この夏もう一つ、私にとっては、考えさせられることがあった。8月21日にNHKスペシャルで報道された「大アマゾン最後の秘境 第4集 最後のイゾラド 森の果て 未知の人々」である。「イゾラド」または「イゾラード」（isolado）とはポルトガル語で「孤立した」、「隔離された」、「絶縁された」という意味である。アマゾンの密林に住む文明を持たない先住民たちのことである。この様な人たちが存在するということは40年以上前にブラジルの大学に留学していた時に教授から聞いてはいた。しかし映像を見たのは初めてで、現代社会・文明との隔絶の大きさにショックを受けた。どうしてこのような人たちが存在するのか。人類学上の大きな研究テーマとなっている。

この映像で感じたことの一つは、意思疎通、コミュニケーションの難しさである。言語はコミュニケーションの最大の手段ではあるが、言語や語彙があっても双方にその元となる概念や生活のバックグラウンドが無ければコミュニケーションは成立しない。（というより正確には概念が無ければ言葉は生まれない。）反対に、身近な例では、お弁当を通じての親子のコミュニケーション、夫婦のコミュニケーションというものもある。また認知症の人とのスキンシップや恋人同士のスキンシップによるコミュニケーションもある。言語は無くともコミュニケーションは成立する。

「コミュニケーション」とは何か。一般に、「伝達」、「通信」、「知らせ」、「意思疎通」等々と訳される。辞書（広辞苑）で調べると、「①社会生活を営む人間の間に行為される知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒体とする。②動物個体間での、身振りや音声・匂いなどによる情報の伝達。（以下引用略）」となっている。つまり「伝達」ということがその意味となっている。

これは勿論間違いではないが、さらにコミュニケーションの語源を見ると、ラテン語の「Comun」で、その概念は「共有する、分け与える、知らせる」である。Comunが語源となっている身近な言葉として、コミュニズム（共産主義）、コミュニティー（地域社会）、コミュニオン（聖体拝領）などがある。つまりコミュニケーションの根幹は「共有」である。これを考えると、上に述べた3つの事例を同じ切り口で理解できる。戦争も平和もコミュニケーション次第。しかしそれが出来ないことが人類の性ともいえる。

語源の概念からすると、コミュニケーションは「共同体意識」、言い換えれば「一体感」の中に在ると思う。一体感を熟成する方法は、会合、広報、共同作業、ノミ（飲み）ニケーション、等いろいろ有ると思う。組織内のコミュニケーションも必要だが、外部とのコミュニケーションも必要。コミュニケーションのさらなる向上が組織運営の効率化、クラブの発展に繋がればと思う。

以上

平成28年・第24回原村例会を終えて（8月例会報告）

伊佐節子

恒例の夏の原村の例会が7月30日（土）に行われた。松本クラブとの原村合同例会も11回目になった。

原村に設立されたこひつじ幼稚園の中村勝子園長と旧武蔵野クラブのメンバーが、夏の避暑をかねて例会を持ったのが、原村例会の始まりで今年で24回目を迎えた。

参加メンバーは武蔵野多摩クラブから9名（小坂さんの妹、河上律子さん怪我のため欠席）、松本クラブから赤羽美恵子会長以下5名（赤澤睦子氏体調不良で欠席）、幼稚園の中村勝子園長以下4名の職員、塩原牧師。今年度は他クラブの常連の参加メンバーが、体調不良、諸事情で参加できず、いつもより少ない集いになった。あずさ部長公式訪問もなし。

例会の最大の楽しみは、先生方の手料理の昼食をいただくこと、厚かましい限りの楽しみである。

毎年替わる手作り箸置き、細かい可愛い工作は、さすが幼稚園の先生！

こひつじ幼稚園の中村勝子園長と小林幸恵先生をチーフとする先生方の献身的な「おもてなし」料理に尽きる原村例会である。

昼食後のプログラムで園長の紹介で、猫ブームにあやかり「りゅうざぶ工房」のご指導で猫の粘土あそびを楽しむ。慣れない粘土遊びに悪戦苦闘して作品の出来は不本意だったが、若者はさすがに上手だった。

夕食は、中村園長紹介のフランス料理を頂き、ペンションに宿泊した男性陣は、夜遅くまで歓談。（特に新入会員の板村さん、大輪さんの参加を大歓迎？したと思う）

翌日、小淵沢の平山郁夫シルクロード美術館を見学後、近くの三分一湧水へ、豊かな湧水を水争いのない公平な三分水で治水した様を見学。

農園でトウモロコシとトマトのおみやげを頂き帰路へ。帰路は2台の車で。大輪ワイズと渡辺ワイズ、運転お疲れさまでした。

中村園長、諸先生大変お世話に有難うございました。原村例会に参加頂いた皆様、ご参加有難うございました。

また来年の原村例会を楽しみに！



国際大会参加報告

渡辺 大輔

8月4～7日、台湾で行われました第72回IC（インターナショナルコンベンション）に参加してきました。当クラブからは宮内直前会長と、渡辺が参加しました。

大会のロースターを見ると全体の登録が約750人、そのうち日本人は184人（東日本区84人、西日本区98人、スイス2人）、台湾からの参加が約350人でした。ICより少し前に始まったIYC（インターナショナルユースコンベンション）へは日本からユースが8名（東から6名、西から2名）参加しました。

コンベンションは主に台北市内の圓山大飯店（グランドホテル）と、EXPO Parkにて行われました。1日目は、開会セレモニー、キーノートスピーチ（人工知能が将来に与える影響について）、IPIP（直前国際会長）晚餐会。2日目は、礼拝、国際書記長報告（西村さん）、各国際委員の報告、EBBA表彰、分科会、エリアミーティング、IPE（次期国際会長）晚餐会。3日目は、IBC締結式、エクスカーショーン、IP（国際会長）晚餐会（ユース合流）。最終日、礼拝、IYCレポート（ユース）、次回国際大会紹介、閉会セレモニーと言った具合であったという間の4日間となりました。

特筆すべきは、2日目のEBBA賞をTsimShaTsuiクラブと合同で世界第一号で受賞しました。詳細につきましては次月号で紹介致します。

最終日（7日）の閉会式終了後には、IBC交流会と言うことで台北セントラルクラブの呼び掛けで、東京西、東京武蔵野多摩、宇都宮、大阪土佐堀、TsimShaTsui、Bangkok、Chinangmaiの8クラブ総勢37名が集まり、誕生会など交流を楽しみました。

個人的には直前に急遽参加を決めた国際大会でしたが、新しい出会いや、しばらく会っていなかった友人と久しぶりに会えてとても良かったです。IYCに参加したユース達も帰ってきて一回りたくましくなったように思います。

次回、国際大会は2018年8月2～5日、韓国麗水、エリア大会は2017年タイチェンマイでの開催です！理事輩出クラブとして、できる限りたくさんのメンバーで参加出来たらよいのではないのでしょうか。



岩手県宮古市訪問 感想

山田公平

2011年3月11日の東日本大震災とそれに続く津波で東北の太平洋側は大きな被害を受けた。盛岡YMCAは、宮古教会を拠点として全国からの応援を受けて、被災者たちへの救援活動を続けてきた。現在は、宮古市内に一軒家を借り、そこをボランティアセンターとして子供たちへのサッカー教室や、野外活動、高校生の活動を展開している。

7月19日、この宮古市へ濱塚総主事と共に訪問し、現地の人たちと会い、また被災地を数か所訪問した。海のすぐ近くには広大な空き地が広がっている。地盤が低いことである。海岸沿いにはコンクリート壁が山のように作られ、陸地から海が見えなくなっている。工事はあちこちで続けられている。一方で地元の商店街や観光名所の海鮮野菜市場には、人が少ない。きれいな観光名所の浄土ヶ浜に行ったが、観光客が極めて少なく、店の人々の表情が暗い。昼食時間の食堂にも客は私たちだけ。

地元の人は、この5年間、必死に生きてきた。何とかしようと努力してきて、5年が経過した。援助団体も引き上げ、地元を応援しようと来てくれていた観光客も徐々に減り、先が見えない、さらに先細るのではという心配で、これ以上赤字経営を続けるより、そろそろ潮どきではと考えるようになっていくと言う。若い人たちは、仕事を求めて他の地域へ移る。高校までは宮古にいても、そのあと大学や専門学校は仙台や盛岡へ行き、そのまま戻ってこないという現実。高齢化は進み、店を閉めるところも次々と出てきた。

障がい者福祉の元職員であった60代の女性と話すことができた。自分の子どもたちがYMCAでお世話になったという。そんなYMCAの働きも、自分たちの運動ではなく、他の地域の人たちがやってくれる活動としてとらえられている人がほとんど。今のサッカーをやっている子供たち（小学校低学年）は、震災や津波のことを覚えていない世代になっている。当時の子どもたちは、高校生か、他の地へ移って行ってしまった。街のことを考えるリーダーはほとんど女性だけと言って、私たちではNPOがやってくれた運動を続けられない...という意見が多いようだと言う。

感想

街の復興は、あちこちで進められている。復興は進み、仮設住宅からも自宅に戻り、仮設地域の自治会も解散した。徐々に新しい段階に入っていた宮古、街並みも元に戻りつつある。しかし、商店街にはシャッターが閉まっているところが多く、観光名所と言われるところも閑散としていた。これでは経営は難しい。無理しないで早いうちに閉めようと考えているのか、暗い表情が見えてくる。

あの災害から5年、必死に頑張り続けてきた。しかし、近頃これまでとは違う気持ちが共通して人々の心を動かしている。家は新しくなっても人々は徐々に減少し、高齢化が目立つようになる。観光客も他の地域には押し寄せるが、宮古には来ない。これ以上あがいても...という気持ちになってもおかしくないほど店にも観光地にも賑わいが無い。

次の5年間。もしもYMCAが継続して支援するのなら、YMCAが何をすべきか、それをどう地元の人たちにかかわってもらえるか。次のステップへのビジョンを抱き、それに向かって一緒にやろうという雰囲気を作ることが必要となっている。

若者は減る。観光も商売も振るわない。NPOは皆去っていく。残るのは高齢者のみ...という現実。そんな中で新しい発想で街おこしができないか。この街に残る人たちが、次の時代を切り開くことができないものか。農業、漁業と福祉が一体となったような取り組みができないか。YMCAはこれから5年間で、地元の人たちが自分の事としてかかわる街づくりを働きかけること、様々な学習会やトレーニングを提供し、地元のリーダー、高校生や女性陣、60代、70代の高齢者をその中核にすることが大切となるだろう。

(次月号に続く)

<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼8月の西東京センタープログラム報告

8/3-5	ワイルドフラワーキャンプ	(東京YMCA山中湖センター)	14名参加
8/11-14	あおぞら・つばさキャンプ	(東京YMCA山中湖センター)	30名参加
	シャベルズ・かめの子キャンプ	(東京YMCA山中湖センター)	37名参加
8/17-21	戸隠ネイチャーアドベンチャーキャンプ	(戸隠あぜりあ)	32名参加
8/18-22	野尻ユースキャンプ	(東洋英和女学院野尻キャンプサイト)	14名参加
8/24-27	道志グリーンキャンプ	(道志の森キャンプ場)	32名参加
8/22-24	つるじんの工作スクール	(西東京センター内)	14名参加
8/28	ユースワンデイトリップ	(伊奈キャンプ村)	

▼9月の主な予定

西東京センター

9/4	幼児野外活動「にこにこ」9月例会
	小学生野外活動「ロビンソン」9月例会
9/11	知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」9月例会
9/17-19	第27回こひつじキャンプ(山中湖センター)
9/25	軽度発達障がい児 野外活動「Smile」9月例会
	知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いずみの会」9月例会

東京YMCA

9/10	国際協力街頭募金活動(新宿)
9/11-13	第29回ユースボランティアリーダーズフォーラム(山中湖センター)
9/12-14	リーダーズキャンプ(山中湖センター)
9/22	第30回インターナショナル チャリティーラン(木場公園)

▼活動紹介

西東京コミュニティーセンターで行っている「定例プログラム」について紹介をしていきます。

今号は野外活動「ロビンソン」についてです。

* 野外活動...月に1回程度、近郊の野山や河原など自然の中で、年齢に応じたさまざまな体験をします。

楽しく遊ぶだけでなく、仲間と協力したり交流を深めたりと、豊かな経験を通して、子どもたちの成長を願っています。

「ロビンソン」

小学生を対象にした年間10回(8月と3月休み)の野外活動で、現在40名(男子26、女子14)が登録しています。低学年が多く登録者の半分は1、2年生です。学年が上がるにつれ学校行事や塾や習い事で参加が難しくなってきました。しかし、高学年(5、6年生)が8人登録していることは、ロビンソンへの期待の大きさや私どもYMCAの願いや趣旨に賛同いただけていることが分かります。

小集団(5人~7人)のグループを編成し、野外(自然を感じられる場)でのグループ活動を通して、自分の興味関心だけでなく、仲間の気持ちを考え相手のために意見や思いを譲ることや協力してひとつのものを完成することなど、グループリーダーを中心に創意工夫を大切に活動を展開しています。グループの中にいながら、一人ひとりが認められ、自分のことを大切にされることを通し、仲間を大切にすることを学びます。学校とは違う環境で出会い仲良くなった仲間との出会いは、子どもたちの幅広い成長の糧につながります。

ボランティアリーダーは7名いて、週1度のリーダー会では例会のプログラム内容を決めるだけでなく、ケースワークや子どもの関わりについても話し合っています。2016年度の年間テーマは、子どもたちにとってロビンソンが「特別な場」「挑戦する場」「人との関わりが大切にする場」とし、このことをベースしてその月のテーマも考え例会に取り組んでいます。

9~10月の予定

9月	10月
・9~11日 Y V L F (山中湖センター)	・2日(日) ファミリーフェスティバル(高尾ワケレ)
・14日(水) 第一例会	・8~10日 YMCA大会(東山荘)
・22日(木) チャリティーラン(木場公園)	・12日(水) 第一例会(リーダー感謝会)
・24~25日 富士山例会	・22日(土) あずさ部会(在日本韓国YMCA)
・28日(水) 第二例会	・26日(水) 第二例会